

私の生活ノート

第十八回

NPO 免疫療法懇談会理事長・ルーマニア開発顧問 酒生文弥

以前書きましたが、干支の2番目「丑」年は地中に宿った種「子」が根を張り始める姿です。昨秋に始まった経済史上最悪の世界大恐慌は本年から少なくとも数年間は未曾有の経済不況という根を広げて行くようです。身近に政治家や不動産・余融業中枢に働く友人が多い私には、まだ磐石と思われる内外の名だたる大企業・大銀行等が既にゾンビ状態であることなどが生々しく伝わってきます。商売にも投機にも無縁に生きてきましたのであまり当事者意識が沸かないのですが、私たちが馴染んできた金融資本主義型の「経済成長」は世界的に完全にご破算となったことは確かなようです。

内外の医療・科学の専門家と一緒に仕事をしている関係上、疫病・自然災害の情報はもっとホットに入ってきます。私も首都圏に働き暮す大群衆の一人ですが、秒読み段階に入っているとされる鳥インフルエンザ(N1H5)感染爆発と神戸震災クラス首都直下型地震（まさか岡時はないと願いますが）。襲来した際の地獄絵図を具に聞かされていると、正直な話、一刻も早く田舎に逃げ帰った方が良いのでは？との衝動にさえ駆られます。N I H 5は、万一人から人に「空気感染」するように変異すると、何とたった1週間の間に世界中で約10億人が罹患し、その60%が亡くなるとのこと。一般的には免疫力の弱い幼児と老人が感染症の餌食になり易い訳ですが、N I H 5はSARS同様「サイトカインストーム（免疫の過剰反応）を引き起こし、多臓器不全で命を奪うもの」のようです。つまり、免疫力の強い10代後半から30代前半の若者が一番危ないのです。

『聖書』にモーゼの導きでユダヤの民が疫病をしのいだ「過ぎ越しの祭り（Pass Over!）」という寓話がありますが、感染情細が耳に入り次第一切の「仕事」を放擲して最低2ヶ月は家族・友人と一緒に「引き込もる」ことをお勧めします。所詮お金や経済など、命に比べれば2の次3の次の価値しかないのですから。

Something Greatが見えなくなり隣人同士愛し合えなくなった傲慢（hubris）と強欲（avarice）の「エゴイズムの文明」の行き着くところは、いつの世も「地獄は一定棲家ぞかし（『歎糞抄』）」です。64年前の夏に親達の世代が体験した地獄を、少し別の形で世界中が体験しつつあるだけなのでしょう。しかし、万人が同時に地獄を味わってこそ初めて、愛や慈悲といった暖かい光明に満ちた「もうひとつの文明」に目覚められもするはずだ、と期待します。私たち人類の遠い先祖は、冷血な爬虫類・恐竜が絶滅していく中、身を寄せ合って生き延びてきた温血の哺乳動物であったそうですから。南無地獄大菩薩！